

インフォメーション

令和7年度主な活動

- R7.4.28 総会
(ベテルギウス会議室)
- 7.20 代表者と教授者のつどい
(ベテルギウス会議室)
- 8.20～8.25 第75回神奈川県華道展
(横浜高島屋)
- 10.15～11.3 やまと芸術祭一般公募展添花
(シリウス1階ギャラリー)
- 11.29～11.30 第74回いけばな諸流展
(シリウス1階ギャラリー)
- R8.2.未定 新春のつどい
- 2.27～3.5 グリーンアップセンター展示花
- 4.10～4.13 第56回武相華道展
(町田パリオ)

第74回 いけばな諸流展

会 期 令和7年11月29日(土)～30日(日)
10時～17時

会 場 大和市文化創造拠点シリウス・ギャラリー

新 役 員

会計監査 伊藤 理妙
中丸 恵紗

退 任 役 員

会計監査 荻窪 虹礼
北岡 喜須恵
(ご協力ありがとうございました)

ボランティア活動

大和市役所、市民活動拠点ベテルギウスの花席に
交代でお花を活けております。

ご希望の方は担当までご連絡下さい。

〈連絡先〉御木 理枝 Tel 046-264-9270

新入会員募集

いけばなを教えている方にお勧め下さい
問い合わせ先 会長 荻窪 一成 ☎046(263)0447〈随時受付〉

印刷／S I 印刷 TEL 046-269-5400・FAX 046-269-1697

心に残る 私の一作



今年の武相展に出瓶させて頂いた作品です。「まき」との出会いから顔をだしたばかりの「新芽」との出会いが今は亡き小菅喜正先生からの「枝の心を生ける」との教えを思い出し武相展にて「冬越えのまき～春に向かう新芽」を見て頂けたらと思いを込めて生けました。まき・新芽の作品は小菅先生の教えと共に心に残る一作となりました。

庭木より「まき」との出会いを頂きました草月流中丸恵紗先生に感謝申し上げます。 北岡 喜須恵 (古流松月会)

第32回 グリーンアップセンター展示花

会 期 令和8年 2月27日(金)～3月5日(木)
前期 2月27日(金)～3月1日(日)
後期 3月3日(火)～3月5日(木)

出瓶はいけばな諸流展にて、お申し込み下さい。

訃 報

大塚 宗恒 先生 令和7年2月17日

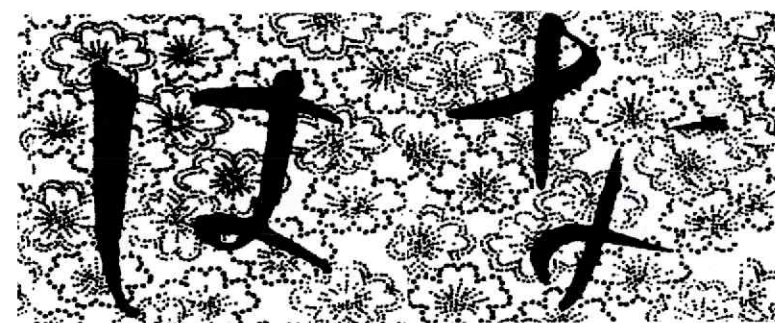
謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます 合 掌

編 集 後 記

ご寄稿くださいました皆様には心より感謝申し上げます。今後もより充実した紙面をお届けできるように、努めてまいります。 広報 御木

大和華道協会

発 行 令和7年10月1日
創 刊 日 昭和54年10月1日
事 務 局 大和市大和南2-8-7
046(263)0447



『 あ ゆ み 』 会 長 荻 窪 一 成

秋の訪れを感じる季節となりました。日頃より大和華道協会諸事業にご支援・ご協力を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

去る6月21日(土)川崎市茶華道協会創立100周年記念式典に参加する機会を得ました。徳安理事長からの「諸先輩方が100年かけて築き上げてきたものを継承し、これからも日本の伝統文化を伝える活動に力を注いでまいりたい」とのお話、また、来賓のご祝辞の中での「協会の日々の活動が文化であり、そして歴史となります」のお言葉が強く印象に残りました。華道に携わる者の心構えと共に大和華道協会の長い歴史を振り返る貴重な機会となりました。

大和華道協会の活動は、市役所とベテルギウスに年間を通してボランティアでお花を生けさせていただいていること、秋のシリウスが会場の大和市主催公募展「絵画」「書」「写真」での添え花の展示協力、協会主催のメイン事業でもある「いけばな諸流展」を挙げることができます。今年は74回となり、補助金をいただくことになりました。毎年大勢の方にご来場いただき、近年行っています中学生以下を対象とする「花名あてクイズラリー」も好評をいただいています。

また、毎年3月にはグリーンアップセンターを会場として展示花も行っております。又、「大和市賀詞交歓会」「やまと二十歳の祝典」「茶の湯はじめ」「大和市表彰式」などへの挿花の機会を頂き、市民の皆様にご覧頂いています。

大和市以外の活動につきましても、「神奈川県華道展」「武相華道展」などに代表者が出瓶させて頂いています。

来年は創立75周年となり、市内にあります善徳寺でこれまで協会にお骨折りいただいた物故者のご供養と花への感謝、わたくしたちの技術の向上を願って「花供養」を予定しています。

記念誌「華心」から大和華道協会の歴史をたどりますと、大和町華道協会と称し昭和26年10月26日に発足、初代会長に鏡孝晴先生が選任され30名で旗揚げされ「会員相互の研究と親睦を図るとともに、華道により地域社会の文化振興に寄与することをもって目的とする」とあります。

華道協会の役割は、それを守り伝える事につぎるのではないかと思います。華道協会会長に就任して1年が経過し「華道と生活」の関係に改めて気づかされた思いです。

また、華道を通じて、美しいものを感じ取り、それを表現していくこと、これが日本の伝統文化を受け継ぐ大きな役割であると改めて感じました。

華道協会は創立以来三四半世紀経過しようとしています。時代とともに活動内容も少しずつ変化していますが、初代会長鏡先生から引き継がれた創立以来の「和」の精神をモットーに、その魅力を多くの人に伝えるため今後も日々活動を続けて参りたいと存じます。



茶の湯はじめ (R7.1.25)



2025やまと二十歳の祝典 (R7.1.13)

特別寄稿

「変わりゆく時代に、変わらぬ美しさを」 大和市長 古谷田 力



会報「はな」第42号のご発行、誠にありがとうございます。

大和華道協会の皆さま方におかれましては、日々研鑽を重ねられながら、歴史と伝統をもった華道を通じ、本市の文化芸術の振興にご尽力いただいております。そのご功績に深く敬意を表しますとともに、心より感謝申し上げます。

今、私たちの暮らしは大きな転換期にあります。AI(人工知能)の出現により、文章、音楽、アートなど、かつては人だけの領域だった表現までAIによって生み出されるようになりました。社会はますます便利になり、効率やスピードが重視される時代となりました。

その一方で、あえて「手間をかけること」「時間をかけて向き合うこと」の価値が、今改めて見直されているようにも感じます。華道はまさにその象徴です。花を選び、枝ぶりを見て、一本一本に意味を込めながら生ける。その静かな行為には、自然との対話があり、自身の心と向き合う時間があり

ます。そこにあるのは、決して効率では語れない、人にしかできない「美」です。市役所の正面玄関には、会員の皆さまが長年にわたり四季折々のお花を生けてくださっていますが、静かにその場に調和するお花は、まさに人にしかできない「美」の結晶です。通り過ぎる市民の皆さまの目にふと留まり、なぜか心が和らぐ。そのような瞬間を支えてくださっていることに、厚く御礼申し上げます。

本市では、本年4月を始期とする第4期大和市文化芸術振興基本計画を策定し、心豊かで潤いのある市民生活、活力ある地域社会の実現を目指しておりますが、その実現に向けては、貴協会のご支援が不可欠です。華道の魅力の発信、継承を通じて、本市の文化芸術の振興のために、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、会長をはじめとする会員の皆さま方のますますのご健勝とご活躍、また、貴協会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

「ご挨拶」

大和市教育局教育長 藤井 明



この度は会報「はな」第42号のご発行、誠にありがとうございます。

大和華道協会の皆様におかれましては、創立以来70年以上にわたり、華道の普及と発展に多大なる貢献をされてまいりましたこと、心より敬意を表します。

貴協会は毎年「いけばな諸流展」を主催され、他地域の華道展にも継続的に作品を出展されています。市内各流派がそれぞれの特徴を生かしながらも、一体となって日本文化の粋を伝えるその活動は、多くの市民に潤いと安らぎをもたらす続けております。

華道は、日本の伝統文化の粋を集めた芸術でありながら、心を整え、自然との調和を感じながら自己表現を深める心豊かな修練でもあります。花を生け、一つひとつの生命と向き合い、その美しさや儚さを感じ取りながら、自分自身と対話する。そのような豊かな時間こそ、昨今の不安定な情

勢を生きる現代人に、癒しと豊かさをもたらすものであると考えます。

また、貴協会は昨年度、大和市文化創造拠点シリウスのギャラリーで主催された「第73回いけばな諸流展」において、作品に使用した花の名前を当てるクイズラリーを実施され、子どもたちに華道への関心を持っていただく試みを行ったとお伺いしております。

子どもたちが自然や季節感到に触れながら、日本文化への愛着と誇りを育む絶好の機会をつくっていただいたことに、改めて敬意を表する次第でございます。

教育行政を担う者として、これからも華道の精神と美意識を次世代に伝え、新たな魅力と醍醐味を創造していただきますことを切に願っております。

結びにあたり、貴協会並びに関係者皆様方の益々のご繁栄とご健勝、ご発展を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

花とともに50年

副会長 井上 玉清

友人宅を訪ねた折、玄関にさりげなく生けられた花との出会いが「生け花」を始めるきっかけでした。今は亡き羽田玉水先生を紹介され先生のご指導の下、生け花「宏道流」を学ぶことになり、せわしい日常の中で花と向き合う時間がとても楽しみでした。残念なことに先生と私を引き合わせてくれた彼女も他界、その後先生との別れもあり先行き案じつつも、家元が一介の私共に温かい手を差し伸べて下さり、仲間に助けられ「生け花」を続けて50年の歳月が経ちました。今でも先生に後押しされている気がいたします。

長きにわたって華道協会にお世話になり、役員の末席に加えていただき14年、未熟な私に役が務まるのかと不安と戸惑いのなか「気負わず・無理せず」自分なりに努めようとお受けし今日にいたっております。これも皆様の支えがあったことと感謝の一言に尽きます。

これからも花を通じてのご縁を機に「人の和・人との輪」を大切に皆様と共に協会の活動に協力していけたらと思います。よろしくお願いいたします。

いけばな諸流展

ここ数年、諸流展に出瓶させていただいております。最初の年に会場に入った時に花の生き生きした様子に大変感動いたしました。諸流派の作品が活けられ、またレリーフがあったり、趣向を凝らしたものがあったり、先生方合同の大作があった年もあり、とても華やかで楽しい華展であると感じております。これからも見に来てくださる方々の心の癒しになるような作品を心がけていきたいと思っております。

池坊 武井 多希子(松川社中)



さくら文芸祭 (R7.3.16)

さくら文芸祭

毎春、高座渋谷のイコーザでの「さくら文芸祭」今年が最後の添え花となりました。生けこみの際には通りがかった多くの方が足を止めて下さり、お花の名前や流派の事など質問があり関心を持って下さる方の多さにとっても嬉しく思いました。イコーザはいけばな諸流展の会場としてもお世話になった場所でもあり、ここでの開催が終えてしまうのは残念ですが、他の会場も添え花などの機会があればと思っています。

照月流 宮田 一智



第73回いけばな諸流展 (R6.11.30~12.1)

グリーンアップセンターでの展示花に思う

桜、桃、椿など春の花が一斉に咲く頃開催されます。会場は天井が高く、「いけばな」も悠々として映えます。グリーンアップセンターは駅から遠いのですが、泉の森に散策に来られた方が来場されています。「いけばな」を見て、心を動かされる人もいるのではないのでしょうか。日本の文化「いけばな」の魅力が伝わる事を願っています。

草月流 菊池 虹晶(三村社中)



新春のつどい 北京飯店 (R7.2.9)

八十路を過ぎて

農家に生まれ農家に嫁ぎ、自然に親しみながら仕事の時々に草花の美しさや強さに励まされてきました。友達に誘われて始めたいけ花、60年余りになります。野草や小さな花々の美しさ、凛と咲く大輪の雄々しさ、その花々に新しい生命を吹き込む、それがいけ花だと思います。華道展では、同じ作品はありません。どの作品も世界で唯一の作品です。参加できること、毎回楽しみにしています。八十路を過ぎ、皆様のご指導のもといけ花を楽しみながら元気でいつまでもと思う昨今です。

『緑陰に声高くして老夫婦』

日本古流 鈴木 一栄(野口社中)



公募展添花 (R6.10.24~28)